

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観的事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2020年12月)

【内政】

- 8日、国民議会は2021年度国家予算案2兆4,522億CFAフラン(約4,900億円)を承認した。2020年度予算は2兆1,670億CFAフランであり、前年比で約13.1%増となる。(9日、La Nation 紙)

【外政】

- 10日、津川貴久駐ベナン日本国大使、マルク・ヴィジー駐ベナン仏大使、シルヴィア・ハートレイフ駐ベナンEU大使、アマル・アフィフィ駐ベナン・エジプト大使は、タロン大統領に信任状を奉呈した。(11日、La Nation 紙)
- 16日、ナイジェリア政府は、ベナンとの陸上国境を開放することを発表した。2019年8月20日に閉鎖されて以来の再開となる。(17日、L'Économiste 紙)

【経済】

- 2日、ベナン政府はエネルギー自給を目指し「ベナン発電公社(SBPE)」を創設することを閣議決定した。同公社は発電を担い、既存の「ベナン電力公社(SBEE)」は販売を担う。(3日、La Nation 紙)

【治安・保健】

- 19日時点でのベナンにおける新型コロナウイルスの累積感染者数は、3,167名(治癒者3,061名、死者44名)であることが公表された。(22日、Le Matinal 紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'Économiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ 8日、国民議会は2021年度国家予算案2兆4,522億CFAフラン(約4,900億円)を承認した。2020年度予算は2兆1,670億CFAフランであり、前年比で約13.1%増となる。(9日、La Nation 紙)
- ・ 11日、野党民主党(Les Démocrates)は、内務省より政党仮認可証を受領し、公認政党として登録された。(14日、Le Matinal 紙)
- ・ 12日、タロン大統領は11月20日に再開した中部・西部の地方訪問をコトヌ市にて終えた。これにて60市の訪問を終えたこととなり、残る17市は2021年1月に訪問する予定である。(14日、La Nation 紙)
- ・ 29日、タロン大統領は国民議会において一般教書演説を行い、政府が進める「政府行動計画(PAG)」の進捗状況を語った。(30日、La Nation 紙)

【外政】

- ・ 1日、新任のハートレイフ駐ベナンEU大使は、アベノンシ外務・協力大臣に信任状の写しを奉呈した。(2日、La Nation 紙)
- ・ 10日、津川貴久駐ベナン日本国大使、マルク・ヴィジー駐ベナン仏大使、シルヴィア・ハートレイフ駐ベナンEU大使、アマル・アフィフィ駐ベナン・エジプト大使は、タロン大統領に信任状を奉呈した。(11日、La Nation 紙)
- ・ 16日、ベナン政府とニジェール政府は、両国国境を越える移牧者の行動制限及び安全管理のための合意を締結した。(17日、La Nation 紙)
- ・ 16日、ナイジェリア政府は、ベナンとの陸上国境を開放することを発表した。2019年8月20日に閉鎖されて以来の再開となる。(17日、L'Économiste 紙)

【治安・保健】

- ・ 1日、ポルトノボ市において、8歳の男子児童が儀式の生け贄にするとの目的で誘拐された。警察の介入により救出された。(2日、Le Matinal 紙)
- ・ IMFの理事会は、新型コロナウイルス対策費としてベナン政府に1億7,796米ドル(約1,000億CFAフラン)を拠出することを決定した。(23日、L'Économiste 紙)
- ・ 11月30日～12月6日の週、交通事故による救急車の出動は249件あり、7名が死亡した。(10日、Le Matinal 紙)
- ・ 19日時点でのベナンにおける新型コロナウイルスの累積感染者数は、3,167名(治癒者3,061名、死者44名)であることが公表された。(22日、Le Matinal 紙)

【経済】

- ・ 2日、ベナン政府はエネルギー自給を目指し「ベナン発電公社(SBPE)」を創設することを閣議決定した。同公社は発電を担い、既存の「ベナン電力公社(SBEE)」は販売を担う。(3日、La Nation 紙)
- ・ 2日、日本国大使館はベナン政府との経済開発政策協議を実施し、津川貴久駐ベナン日本国大使、ビオ・チャネ計画・開発大臣らが出席した。(3日、La Nation 紙)
- ・ 8日、JICA帰国研修員の同窓会2A2BJは、新型コロナウイルス対策のため、コトヌ市内の学校に手洗い器具、マスク、石けん等の備品を提供した。(9日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 14日、世界銀行グループの国際発展協会は、若年層の包摂のため、ベナンに324億CFAフランの貸付を行うことを決定した。(16日、L'Économiste 紙)
- ・ 15日、UNDPとベナン政府は、年次会合を開催し、開発協カプログラム2019－2023に基づく事業進捗を確認し、意見交換を行った。(16日、La Nation 紙)
- ・ 17日、アフリカビジネス誌 Financial afrik は、ワダニ経済・財務大臣を2020年の最優秀財務大臣に選出した。(18日、La Nation 紙)

【文化・その他】

- ・ 8日、ベン駐ベナン中国大使は、ラデカン高等教育・科学研究省と共同で、47名の学業成績優秀者に一帯一路賞を授与した。最優秀省受賞者には賞金50万CFAフラン、優秀省には30万CFAフラン、第3位には20万CFAフランが贈られた。(9日、Le Matinal 紙)
- ・ 17日、フランス国民議会は、文化財26点をベナンに返却することを承認した。1年以内に返却されることとなる。(18日、La Nation 紙)
- ・ 19日、空手の型アフリカ選手権(8~13歳が対象)にて、ベナン人空手家4名がメダルを受賞した(1名が銀、3名が銅)。(21日、La Nation 紙)
- ・ 22日、レキヤ・マドゥグ元法務大臣は、サル・セネガル大統領を訪問し、自身の著作物を手交した。(24日、L'Économiste 紙)
- ・ 木村純夫埼玉県幸手市長は、Le Matinal 紙及び L'Événemet Précis 紙のインタビューを受け、同市とベナンとの交流について語った。(22日、Le Matinal 紙)